

[図書館活動報告] 図書館リニューアル工事の実施 について

著者	新谷 大二郎
雑誌名	関西大学図書館フォーラム = Kansai University Library forum
巻	27
ページ	44-48
発行年	2022-07-31
URL	http://doi.org/10.32286/00026992

図書館リニューアル工事の実施について

新谷 大二郎

本稿は、2021年8月から2022年3月にかけて実施された関西大学図書館の総合図書館（以下、「図書館」という。）におけるリニューアル工事について報告するものである。また、その一環で2021年8月から11月にかけて実施された新設書架設置工事及び資料移動作業について、その経緯と結果及び今後の展開について報告するものである。取り上げるトピックは以下のとおりである。

- 1 2021年度図書館リニューアル工事について
- 2 新設書架設置及び資料移動作業について
- 3 今後について

1 2021年度図書館リニューアル工事について

図書館では、2021年度にリニューアル工事を実施した。主な内容は以下のとおりである。

- 8月～10月 耐震天井・照明LED化・新設書架設置工事
- 11月 資料移動作業
- 2月～3月 エレベーター更新工事

このうち、新設書架設置工事及び資料移動作業については別項において報告することとし、ここでは、その他の工事に関して報告する。

また、意思決定も含めた図書館リニューアル工事全体の大きな流れは以下のとおりである。

- 2018年7月 書庫狭隘にかかる報告文書提出
- 2019年9月 学内プロジェクトへの要望提出
- 2019～2020年 キャンパスデザイン会議事項として取り上げられることに決定
- 2020年6月 工事概要確認等開始
- 2020年8月 工事内容確定、予算申請準備開始
- 2021年1月 2021年度施工箇所確定
- 2021年2月 工事内容図書委員会報告
- 2021年4月 工事によるサービス制限事項の図書委員会報告
- 2021年6月 工事実施のキックオフミーティング、工事によるサービス制限事項の利用者周知
- 2021年8月～10月 耐震天井・照明LED化・新設書架設置工事実施

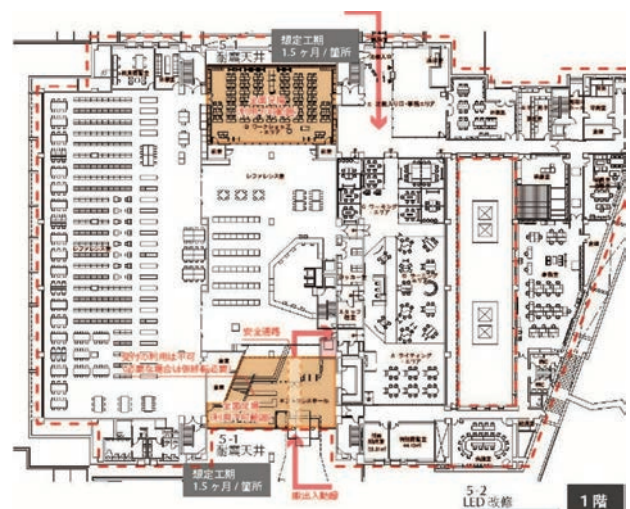
- 2021年11月 資料移動作業実施
- 2021年12月 耐震天井・照明LED化・新設書架設置工事、資料移動作業結果の図書委員会報告
- 2022年2月～3月 エレベーター更新工事実施

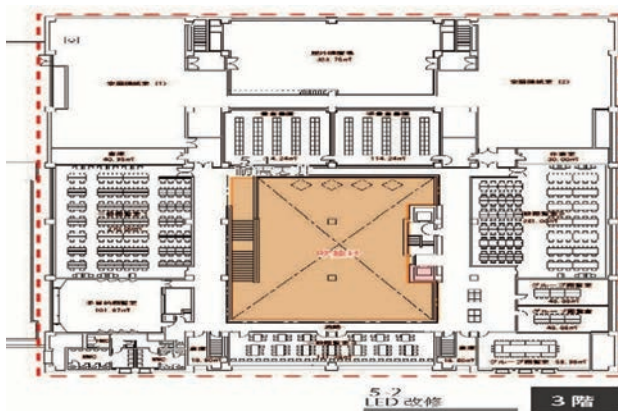
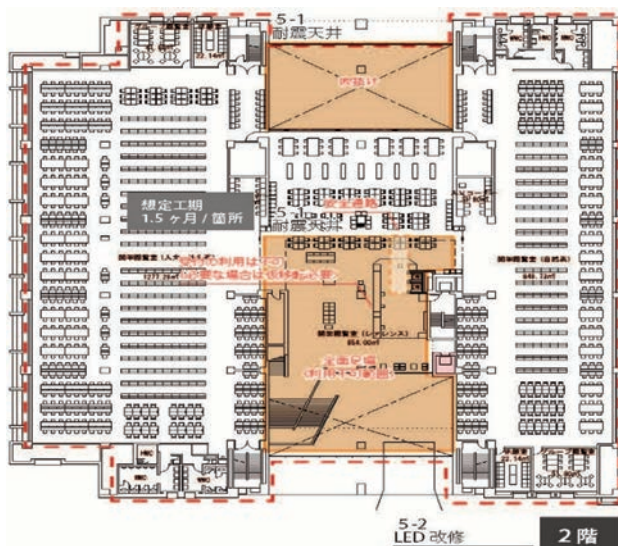
(1) 耐震天井・照明LED化工事

耐震天井工事は地震の際の天井落下対策を目的として実施された。照明LED化工事は水銀灯等が残っていた館内照明を全域LED化することを目的として実施された。照明LED化工事については、2021年度は耐震天井工事と併せて実施できる部分を優先して施工し、複数年計画で2022年度以降も順次施工される予定であったのが変更となり、2021年度をもって工事が完了した。本項では、以降耐震天井工事と照明LED化をまとめて「本工事」という。

本工事にあたっては、当館の階層構造が地下1～2階、地上1～3階となっており、さらに地上1～3階は吹き抜けとなっているため、1階から3階に至る足場の組立が必要となった。足場の設置位置は図書館の利用エリアと重なることになり、図書館は本工事期間中のサービス制限範囲について検討することとなった。

○足場設置範囲（着色部分）について





○足場設置の様子



上図のとおり、1階の正面（南側）入口の一角、ラーニング・commonsの一部であるワークショップ・エリア、2階の開架カウンターを含む中央部分一角、3階の吹き抜け部分が立入不可となった。

特に影響が大きかったのは1階の正面入口と2階の中央部分であり、ここにはエントランスカウンターと開架カウンターが設置されている関係で、工事期間中にも図書館の営業を継続するのであれば、当該カウンターの扱いをどうするかを

検討する必要があった。

工事の施工業者と所管部署からは臨時休館を含む期間中のサービスの制限について検討依頼がなされたが、図書館は、提供できるサービスを最大限維持しつつ、開館しながら施工することとした。判断基準としては、1) 施工期間が長く、期間一杯休館することは許容され得ないこと、2) 8月から9月にかけての大学の休業期間のみ休館することも検討したが、休業期間かつコロナ禍の状況下であり、来館者数も工事に支障をきたすほどにはならないと予想されたこと、3) 北側入口からの入退館が可能であり、館内の主要な各利用エリアへの動線が確保できること、があった。

停止することとしたサービスについては、以下のとおりである。この他、コロナ禍の影響により停止していたサービスもあったが、ここではその点は割愛する。

<停止したサービス>

- 正面入口の閉鎖
- ラーニング・エリア（ラーニング・commons内の自由利用エリア）を除くグループ学習エリアの閉鎖
- 図書館ガイダンスの停止
- 足場範囲に設置の資料、機器、備品の利用停止（蔵書検索端末、コピー機、大型資料など）
- 1階～3階利用者用エレベーターの利用停止

※事務用エレベーターは利用可能であったため、階段での移動が困難な利用者には申し出により対応するなどした。ただし、秋学期開始以降3階を開放していたのだが、3階については常はスタッフのいないフロアとなっており、3階から降りる際にスタッフと連絡を取る手段がないため、当該対象者の3階利用は不可とする措置を取った。施設設備・運用上やむを得ない措置であったとはいえ、ノーマライゼーションの観点から見ると、課題の残る対応であった。

上述のとおり、この対応にあたって最も大きな課題となったのは、1階エントランスカウンターと2階開架カウンターの機能移転の是非であったが、これについては現場スタッフからの意見も聴取した上で、1階エントランスカウンター機能は同北側エントランスに、2階開架カウンター機能は2階のAV資料コーナーに仮設のカウンターを設けることで解決することとした。1階北側エントランスには十分な電源、LANが既に敷設してあったので、機器の移動のみで対応できたが、2階については当然事務作業を想定したスペースではなかったため、事前に電源・LANの工事を実施の上、機器類や事務用物品を移動させる対応を行った。移動作業にあたっては、種々不測の事態を想定し、作業日を終日臨時休館として臨んだが、特に問題なく実施できた。

○2階仮設カウンター

- 仮設時の様子



- 通常時（AV資料コーナーとして運用）



工事開始後に発生した問題としては、大きなものでは予定していたよりも館内の安全通路の幅が狭く設置されてしまっていたことや安全経路を確保しておいてもらうことにしていたはずの箇所が封鎖されていたということがあった。運用でカバーする、一部間仕切りを開放し、安全通路を確保するといった対応で解決を図ることはできたが、これについては施工業者と図書館との間の事前の認識のすり合わせをもっと綿密に行う必要を痛感させられた。特に通路幅については、車いすが通れない、ブックトラックがすれ違えないことができない、といったことは、図書館施設を運用するにあたっては致命的なことであることを、しつこいまでに伝えておくべきであったと反省している。運用面の問題としては、普段と異なる図書館の様子と正面入口が閉鎖されたことが合わさり、入ったのはいいものの、出る時の経路がわからず館内で迷子になる利用者が発生した。これについては、館内の誘導掲示を増設することによる対応を行った。

その他については特に問題もなく、工事は10月に予定どおり完了した。

(2) エレベーター更新工事

エレベーター更新工事は、30年以上使用しているエレベーターの老朽化の解消を目的として実施された。2021年度に利用者用の2基、2022年度に事務用の1基の取替を行う内容としている。

2021年12月には折しも取替対象の1基について、人が中に入ったままの状態で停止するといった故障が生じたところであったので、良い拍子での工事となった。

図書館での対応としては、地上3階から地下2階を行き来するためのエレベーターを最低1基確保しつつ工事を実施することを前提として、利用者用のエレベーターが対象となった2021年度については、工事期間中は階段での移動が困難な場合は都度カウンターに申し出てもらい、事務用エレベーターを案内して移動してもらうという対応を取った。耐震天井の項で述べた3階の利用の問題については、もとより休業期間は3階を利用不可としているため、この工事期間中には問題にはならなかった。

工事は2月に開始され、3月中旬に予定どおり完了した。

2 新設書架設置及び資料移動作業について

次に、図書館リニューアル工事の一環として8月から11月にかけて実施した新設書架設置及び資料移動作業について報告する。

(1) 新設書架設置までの経緯

まず、当館において新設書架を設置するに至った理由について触れておく必要があると思われるため、簡単に経緯をまとめる。

当館では、この20年来、書庫の狭隘が問題視され続けてきた。その解決のためにこれまで以下に列挙するとおりの種々の対応を行ってきたが、ついに工夫の余地なく書架が飽和することが明らかになったことから、今回の書架設置要望に至り、それが認められた次第である。

○これまでの図書館の主な書庫狭隘対策

2002年度 「書庫拡充計画の骨子」について図書委員会承認

- この時点で配架率82%超過
- 電子リソースの積極導入、アーカイブ保証による製本中止、バックナンバー処分の提言
- 図書館施設増設、マガジンセンターの設置を要望。実現せず。

2005年度 第2書庫の設置（旧情報処理センターを図書館と併合し、書庫として運用）

2013年度 「総合図書館書庫狭隘化抜本対策の骨子について」を学長に提出

- B1書庫は7年以内、B2書庫は3年以内に配架率100%超過
- 壁面閲覧席撤去による書架増設の提案

- 低利用の図書の廃棄ルール策定の提言
- 図書館外の新たな保管施設の設置要望

施設設置要望は実現せず、資料の廃棄基準の策定を前提とした図書館の自助努力をさらに求める旨、回答があった。低利用の図書の廃棄ルールについても、研究用図書の廃棄のハードルが高く、実現はされなかった。

2014年度 壁面閲覧席撤去による書架増設

2016年度 「総合図書館書庫狭隘化対策の骨子」について図書委員会承認

- 電子資料の優先的提供の推進（アーカイブ保証つき資料の廃棄）
- 他大学図書館との分担保存
- 除却可能資料の都度提案

2017年度 アーカイブ保証つき資料の抜取を実施（2019年度に除籍、廃棄）

2017年度 大阪市立大学及び大阪府立大学と「所蔵資料の相互利用及び分担保存に関する申し合わせ」を締結

2018年度 「総合図書館書庫の狭隘化対策について（お願い）」を学長に提出

2020年度 2021年度以降に新設書架が設置されることに決定

このように経緯を振り返ると、歴代の担当者が危機意識を持ち、自助努力により配架スペースを保ちながら、粘り強く要請し続けてきたことにより、今回の書架の設置に至ったことがよくわかる。

ところで、新設書架の設置が具体化した2020年度時点で、書庫全体としての配架率はこの間に自助努力で確保してきたスペースも含めて100%を突破しており、通常の図書・製本雑誌についてはB2階の洋製本雑誌を除いては全く配架スペースが捻出できないという事態に陥っていた。ここにきてようやく大規模な書架設置が叶うとあって、担当としてひとつ胸をなでおろしたことは言うまでもない。

(2) 新設書架設置及び資料移動作業の実施

そのような経緯・背景から設置されるに至った書架の概要及び当該書架への資料移動作業について報告したい。ところで、設置された書架はすべて電動集密書架である。

まず、設置場所としては計12カ所。2021年度にはそのうち7カ所への設置がなされた。場所の特徴としては、地下2階から地上2階まで、閲覧室として運用していた場所、バックヤードの倉庫等、様々である。とにかく耐荷重が水準を満たしており、書架を設置できそうな場所に置けるだけ置くというコンセプトで進めた。既存の什器については原則廃棄し、再利用は行わなかった。かつ、バックヤード以外の部屋については、扉を撤去し、すべて開架方式とした。総合図書館において電動集密書架を開架方式で運用するのは前例のないことであったが、各地に散らばる書架を開架方式とし、スタッフによる出納でまかなうことは現実的とは言えず、機器のセ

キュリティ面での性能が向上していることや書庫では利用者自身で操作させていることから、許容範囲と判断した。

収容力としては、12カ所のべて266,960冊分、約16年分のスペースが確保できる見込みである。当初は283,700冊、約17年分のスペースが確保できる見込みであったが、国際DXの設備の一部を図書館内の書架設置予定箇所に導入することになったため、計画の一部変更が必要になった。これにより後述する資料移動作業についても今後の計画に大幅な変更が生じることになったが、それについてはまた別の機会があれば報告することにした。

採用した書架は株式会社 文祥堂の取り扱う「エレコンパック neo」である。計画段階から多大な協力をいただき、価格面でも魅力的な提案をいただいたことから採用に至った。今回の書架から実装された書架間の間隔をボタン1つで均一に保つことのできる「散開」機能が、湿気対策にも悩まされがちな当館としては有難いものでもあった。

設置工事は上述の耐震天井工事等の工期と合わせ、8月～10月の間に実施した。耐震天井工事とは異なり、特に工事のために調整が必要になる事項はなかったため、問題なく実施された。

続く11月には、設置された書架への第1期の資料移動作業を実施した。第2期の作業はすべての書架が設置完了する見込みの2024年度を予定しており、第1期では、新着の製本雑誌と、その他低利用の書庫配架の参考図書の一部の移動を実施した。これにより生じた書庫スペースにて2024年度までの配架を堪え、2024年度の第2期の移動作業によって、向こう10年は書架調整を必要としないように書庫全体の引き伸ばしを行うことを計画している。

移動作業について、2021年度の移動は既存の書架から新設書架への移動のみの単純なものであったため、より安価に作業いただける配送業者に依頼し、実施した。結果としては、多少の想定外の事態は生じたものの、1週間という短い期間で実施することができ、箱詰めではなくブックトラックでの移動を行ってもらえたこともあり、事後に書架調整を行わなければならないようなところもほとんどなく、満足の行くものであった。これについては、今後同様の作業計画を検討していくにあたっての、貴重な実績を積むことができたものと考えている。

作業中は、該当エリアは立入不可とし、配架している資料を利用したい場合は、カウンターに請求させることにしたが、クレームは特になかった。移動対象を製本雑誌を除いては低利用のものとしたためと思われる。第2期の作業については書庫のほぼ全資料が対象となるため、今回の結果は参考にはならないと思っておいた方がよいだろう。

3 今後について

まず、図書館リニューアル工事にあって図書館が要望し

たが叶わなかったことがあり、それらについて粘り強く要望を続けていく必要がある。総合図書館自体の建替は築50年を経過したとしても、すぐにどうこうということはない見通しのため、現状の建屋をできるだけ現代のニーズに合わせながら改修を重ねていくという手段を採らざるをえず、そのためには、必要な補修についての図書館側からの積極的な提案が必要不可欠である。

次に、新たに設置される書架について、いずれもその設置場所が、もともと書架を設置するスペースとしては想定されていない場所であるため、特に温湿度管理について、追って対応が必要になろうと考えている。

最後に、リニューアル工事の全体計画としては、新設書架設置が最も長期のものとなり、上述のとおり2024年度が最終年度の予定となる。2021年度の対応を踏まえ、残り3年間についても、極力利用者に影響を感じさせないように、円滑な対応を進めていきたい。特に、最終年度にはこれまでにない大規模な資料移動作業が予定されているため、事前計画を綿密にし、より使いやすくなったと言われるよう、今から心がけていくようにしたい。

(しんたに だいじろう 図書館事務室)